

第 113 回リニアドライブ技術委員会議事録案

日時：平成 21 年 1 月 30 日(金) 14:00～16:30

場所：神戸大学 海事科学研究科 総合学術研究棟 5F 会議室

出席者：委員長 脇若（信州大）

副委員長 北野（J R 東海）

委員 小豆澤（神戸大）、岩松（鉄道総研）、海老原（東横女短大）、大崎（東京大）、
花岡（東洋電機製造）、樋口（長崎大）、平田（大阪大）、
増澤（茨城大、代理住倉（国循））、矢野（産総研）、
森下（東芝、代理大橋（関西大））

幹事 村井（J R 東海）

幹事補佐 鳥居（武蔵工業大）

提出資料

- 113-1 第 112 回リニアドライブ技術委員会議事録案（鳥居幹事補佐）
（参考資料：第 111 回リニアドライブ技術委員会議事録案）
- 113-2 リニアドライブ技術委員会名簿（矢島幹事補佐）
- 113-3 平成 20・21 年度リニアドライブ関連各委員会予定一覧（鳥居幹事補佐）
- 113-4 本部表彰・部門表彰（北野副委員長）
- 113-5 平成 21 年電気学会産業応用部門大会シンポジウムテーマ提案のお願い（脇若委員長）
- 113-6 平成 21 年電気学会産業応用部門大会オーガナイズドセッション提案のお願い（脇若委員長）
- 113-7 第 21 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム（脇若委員長）
- 113-8 LDIA2009 Linear Drives for Industry Applications（脇若委員長）
- 113-9 医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会解散報告書（増澤委員）
- 113-10 産業用リニア電磁駆動システムにおける要素技術の体系化調査専門委員会解散報告書（案）（鳥居幹事補佐）
- 113-11 技術報告書「産業用リニア電磁駆動システムの要素技術とその動向」スケジュール（鳥居幹事補佐）
- 113-12 多自由度モータ及び新世代アクチュエータの応用可能性調査専門委員会設置趣意書（矢野委員）
- 113-13 医用アクチュエーション周辺技術の高度化に関する協同研究委員会設置趣意書（090130 案）（増澤委員）
- 113-14 平成 21 年度(H21 年 4 月～H22 年 3 月)活動計画(3 次案)（脇若委員長）
- 113-15 産業用リニア駆動システムにおける要素技術の体系化調査専門委員会（MEL）活動報告（鳥居幹事補佐）
- 113-16 医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会（ECD）活動報告（増澤委員）
- 113-17 第 8 回医用アクチュエーション技術の体系化に関する協同研究委員会議事録（増澤委員）

議事

1 議事録確認

資料 113-1 を用いて議事録の確認が行われた。議事 1「数箇所修正し、承認された」について、参考資料として修正後の議事録が提出されているが、修正箇所を正確にリストアップすることとした。関連して、20 周年記念行事については、次回 4/24 を第 1 候補とし、内容については幹事グループに一任することとした。

2. 報告事項

2.1 資料 113-2 を用いて、委員会名簿の確認が行われた。

2.2 資料 113-3 を用いて、予定の確認が行われた。

i) LD 技委：予定 4/24, 7/17, 10/23, 12/11, 2/5 を追加

ii) 関連会合：11/19-20MAGDA コンファレンス（東京）を追加

2.3 資料 113-4 を用いて、北野副委員長より、発表賞について、本部表彰 2 名：村松雅理（大阪大）、山本晃弘（京都大）、部門表彰 2 名：佐藤健生（福島高専）、板坂直樹（武蔵工大）が決定したとの報告があった。

- 2.4 資料 113-5 を用いて、委員長より、D部門大会のシンポジウム提案についての説明があり、資料通り MEL 委から提案することとした。また、資料 113-6 を用いて、オーガナイズドセッション提案についての説明があった。
- 2.5 資料 113-7 を用いて、委員長より、5/20～22 に開催される電磁力シンポの現状について、資料のように Web が設置されていること、1/30 の締切を 2/8 に延長したこと等の報告があった。
- 2.6 資料 113-8 を用いて、委員長より、LDIA2009 の状況について、日本からの参加が若干低調であるとの報告があった。席上投稿数の確認を行った結果、予定を含めて以下のとおりであった。
信州大 3+2 件、武蔵工大 2 件、産総研 1 件、神戸大 2 件、東大 4 件、阪大 3 件、
関西大 1 件、長崎大 1 件、大分大 1 件 計 20 件
他にもあるかもしれないとの情報があり、論文投稿、参加の呼びかけを、傘下委員会を中心に行っていくこととした。
- 2.7 小豆澤委員より 1/29～1/30 に開催された LD 研究会の報告が行われた。発表は計 20 件、参加者は 40+30=延べ 70 名であり、懇親会は 33 名が参加した。

3. 審議事項

- 3.1 資料 113-9 を用いて、住倉氏より、現 ECD 委の解散報告書案が朗読され、審議された。成果報告は、シンポジウムではなくオーガナイズドセッションで行うのが良いのではないかと意見があり、変更することとした。成果報告の詳細を記述して、再度メール審議することとした。
- 3.2 資料 113-10 を用いて、鳥居幹事補佐より、現 MEL 委の解散報告書案が朗読され、審議された。技術報告の題目「・・・とその応用」は内容が明確でないとの指摘があり、修正することとした。また、整理委員会は 6 月末までの設置に修正することとした。関連して、資料 113-11 を用いて、前 MEL 委の技術報告出版の予定の説明が行われた。
- 3.3 資料 113-12 を用いて、矢野委員より、多自由度及び新世代の応用可能性調査専門委員会の設置趣意書が朗読され、審議された。2 つの委員会を合わせた感触があり、はっきりした位置づけが必要との指摘があった。委員会名を「新世代アクチュエータの多自由度化」等として明確化することとした。委員会名称の候補についての意見が多数出され、参考にして検討・修正する。2 月いっぱいメール審議の後提出し、4 月設置の予定である。
- 3.4 資料 113-13 を用いて、住倉氏より、医用アクチュエーションの協同研究委員会の設置趣意書が朗読され、審議された。目的の最後で、無理にリニアを入れなくてもいいのではないかと意見があった。協同研究委員会としての報告形態、通信費、幹事団の構成についての指摘があり、修正することとした。
- 3.5 資料 113-14 を用いて、脇若委員長より、次年度の研究会・見学会等の活動計画について説明があった。ここまでの審議・報告に基づき修正・追加を行った。協賛会議等のアクティビティの報告を部門誌やレターに必ず載せるようにすべきだとの指摘があった。LD 研究会は、7 月(TER 合同)、8 月[NAD 協賛]、10 月[ECD 協賛]、12 月(SPC 合同)[MLV 協賛]、1 月[MEL 協賛]とし、発表数予定を 20 件×5 回とする。

4 各調査専門委員会活動報告

資料 113-15～113-17 を用いて、各調査専門委員会から活動報告があった。

以上